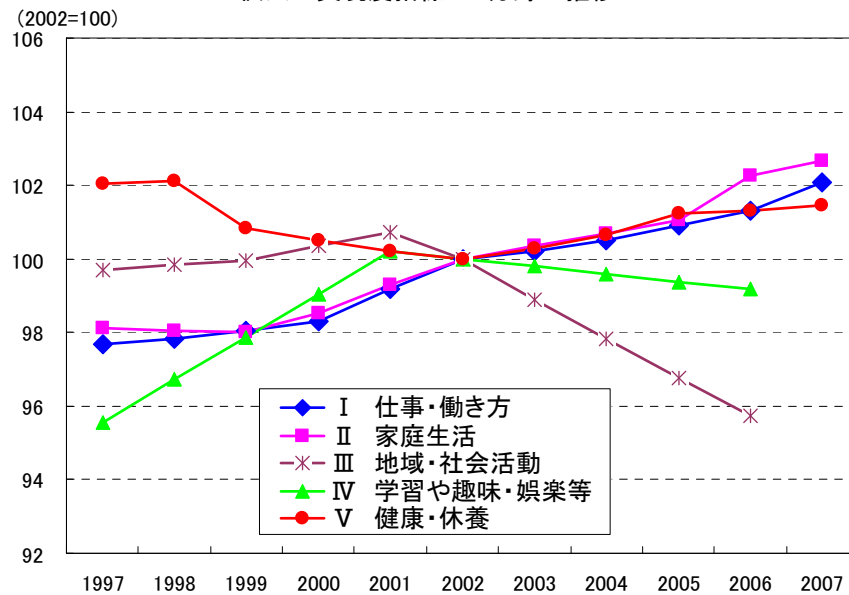


「仕事と生活の調和」実現度指標(2007年暫定版)について

個人の実現度指標

2007年は、「I 仕事・働き方」が育児休業取得率の増加などにより上昇するなど、更新可能な3分野についてはいずれも上昇。

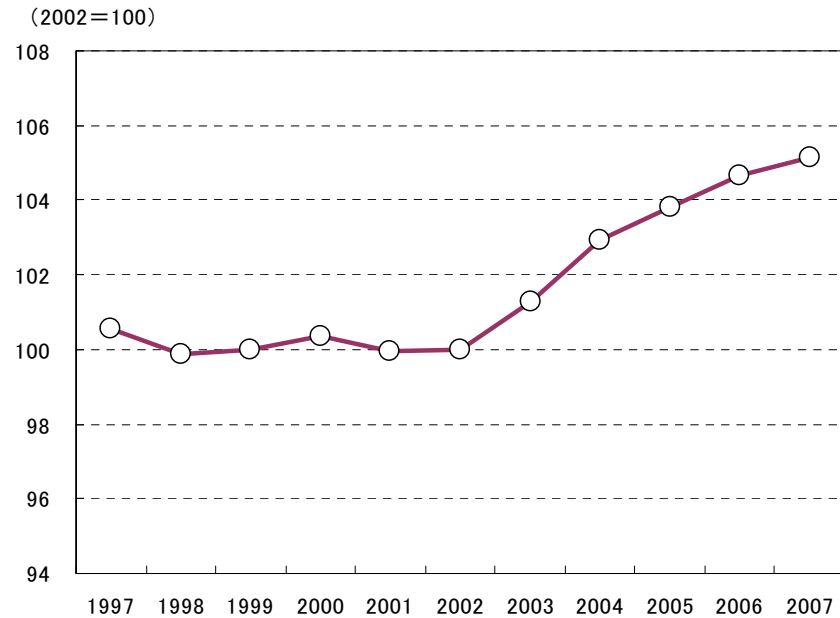
個人の実現度指標の5分野の推移



環境整備指標

2007年は、引き続き保育サービス等の充実などを反映して上昇。

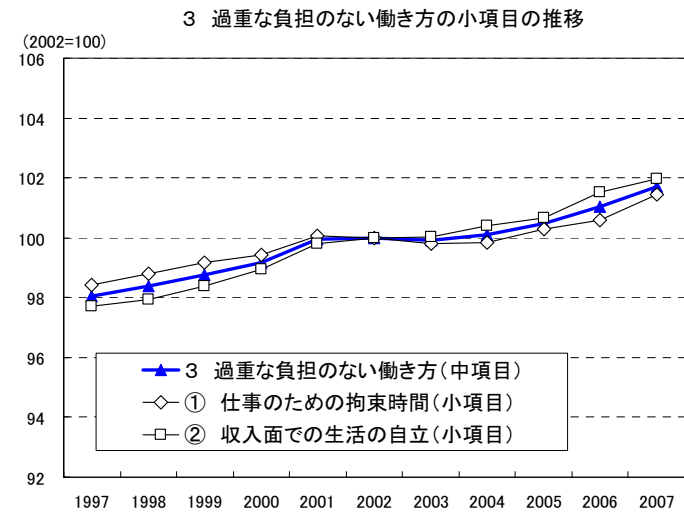
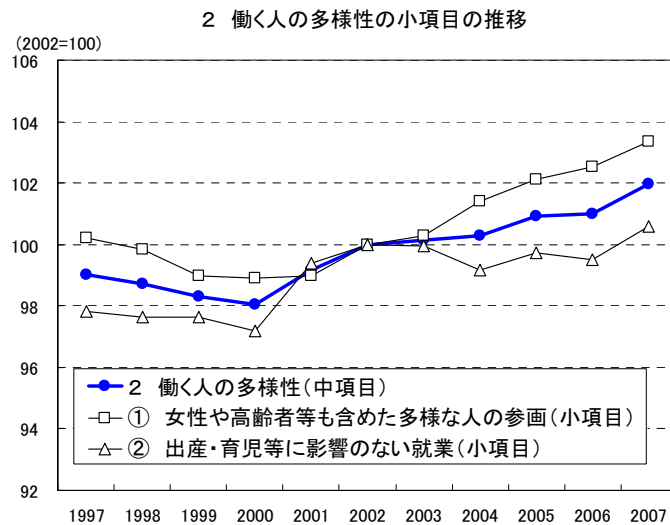
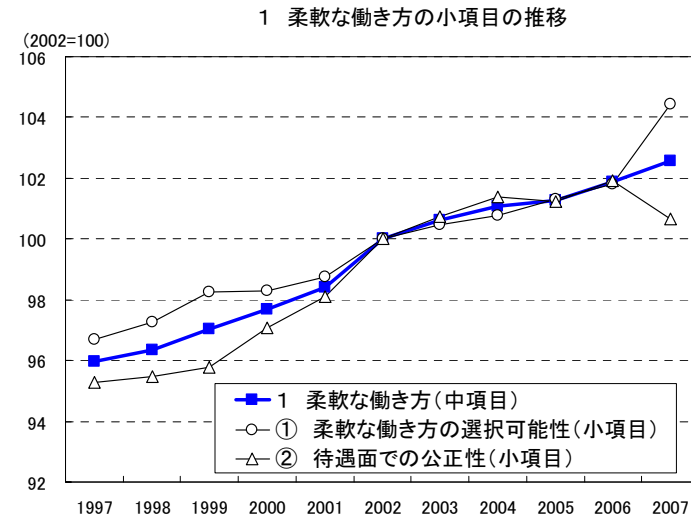
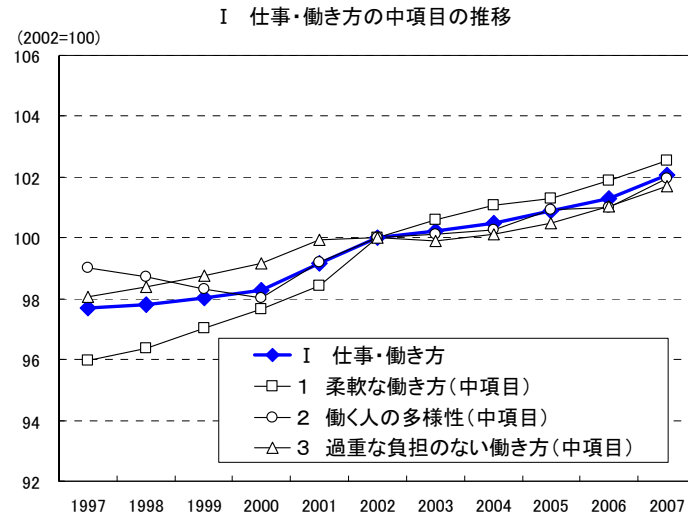
環境整備指標の推移



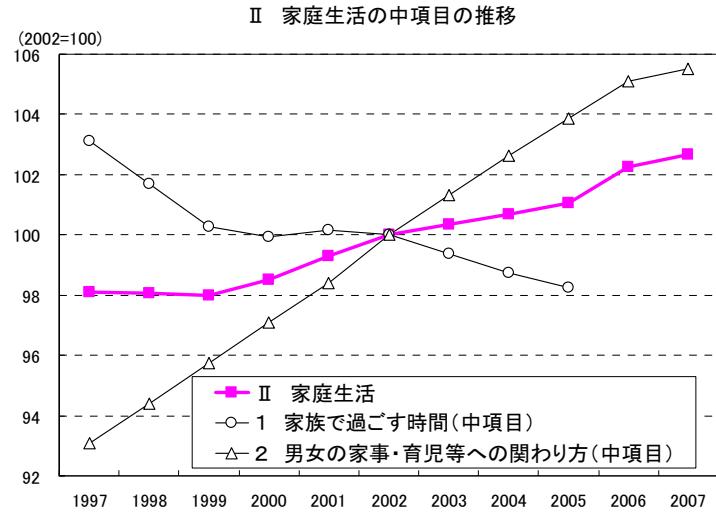
- (備考) 1. 指標は2002年を基準年として指数化したものであり、各年の水準は各分野における基準年と比較した相対的な状況を示している。
 2. 指数の上昇(低下)は、各分野における仕事と生活の調和が進展(後退)していることを意味する。
 3. 指標は、平成20年12月2日までに入手したデータにより作成。Ⅲ地域・社会活動及びⅣ学習や趣味・娯楽等については、更新できる数値がないため2006年までの値となっている。

1. 実現度指標(各分野別)の動向

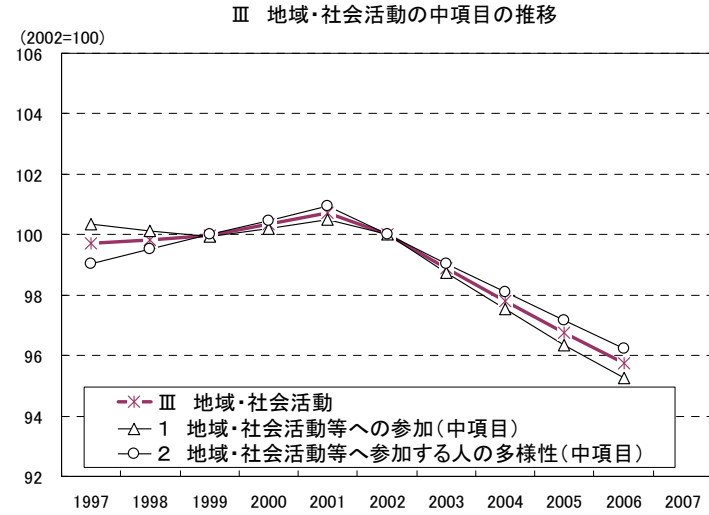
「I 仕事・働き方」分野の動向



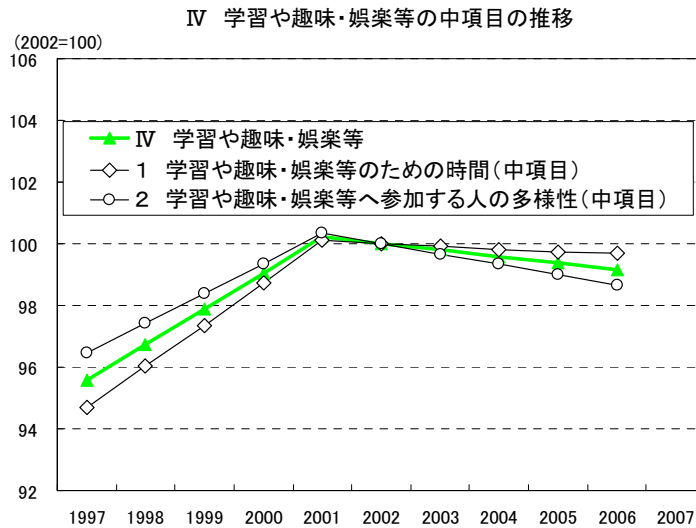
「Ⅱ 家庭生活」分野の動向



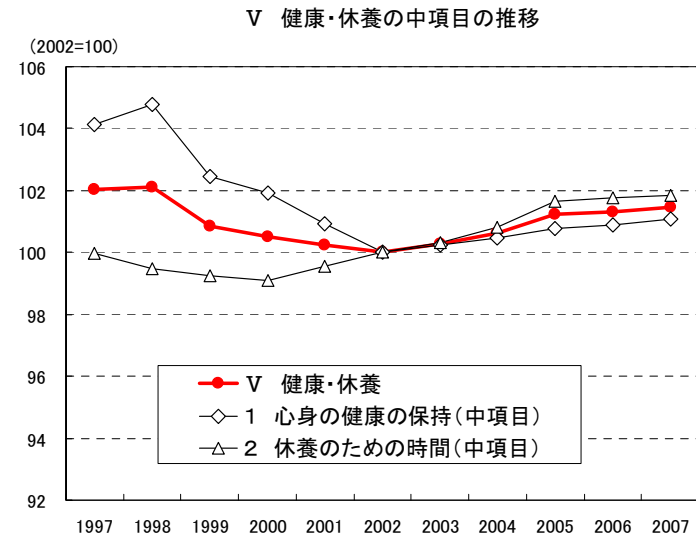
「Ⅲ 地域・社会活動」分野の動向



「Ⅳ 学習や趣味・娯楽等」分野の動向



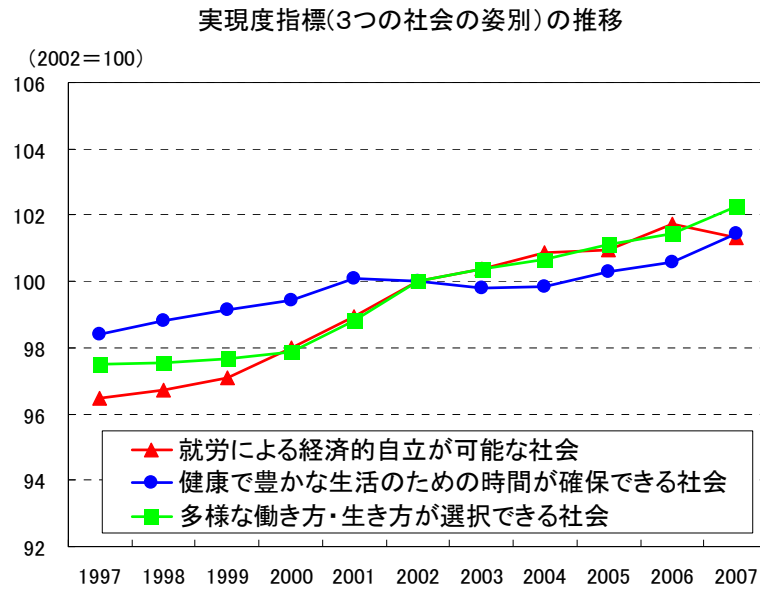
「Ⅴ 健康・休養」分野の動向



2. 実現度指標(3つの社会の姿別)の動向

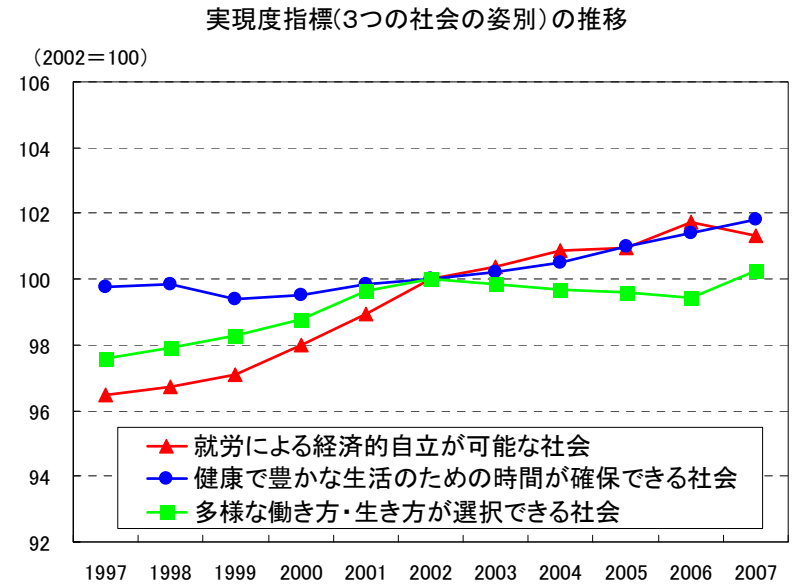
1. 「仕事・働き方」分野

(「仕事・働き方」指標のみから算出した「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」別の個人の実現度指標)



2. 5分野

(5分野の指標より算出した「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」別の個人の実現度指標)



「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」別による「仕事と生活の調和」個人の実現度指標の全体像

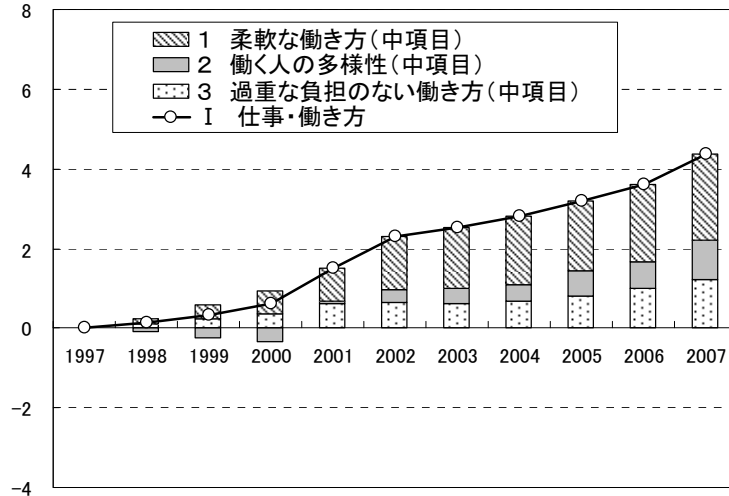


3. 1997年からの乖離幅でみた実現度指標(各分野別)の動向

「I 仕事・働き方」分野の動向

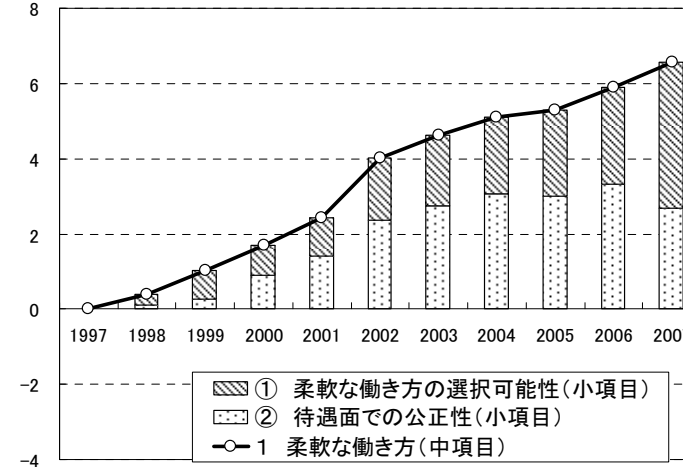
I 仕事・働き方の推移の内訳

(1997年からの指数の乖離幅)



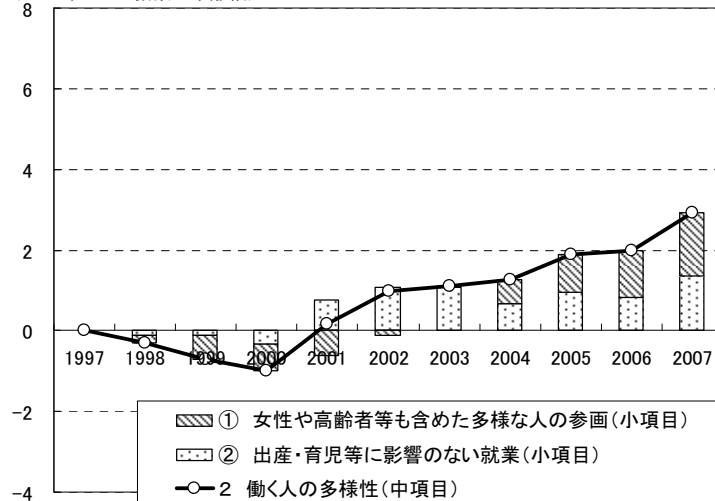
1 柔軟な働き方の推移の内訳

(1997年からの指数の乖離幅)



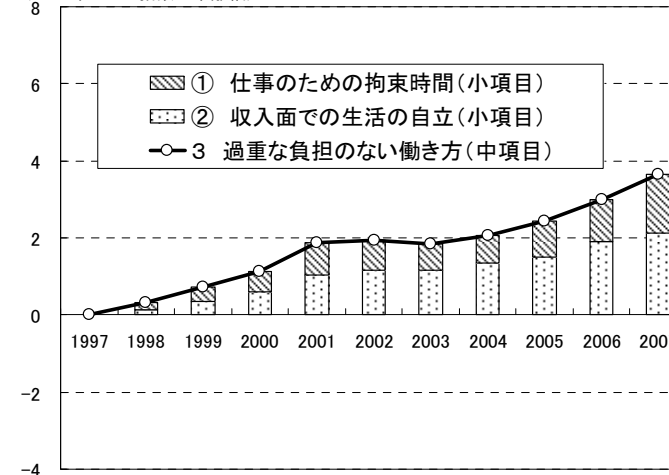
2 働く人の多様性の推移の内訳

(1997年からの指数の乖離幅)



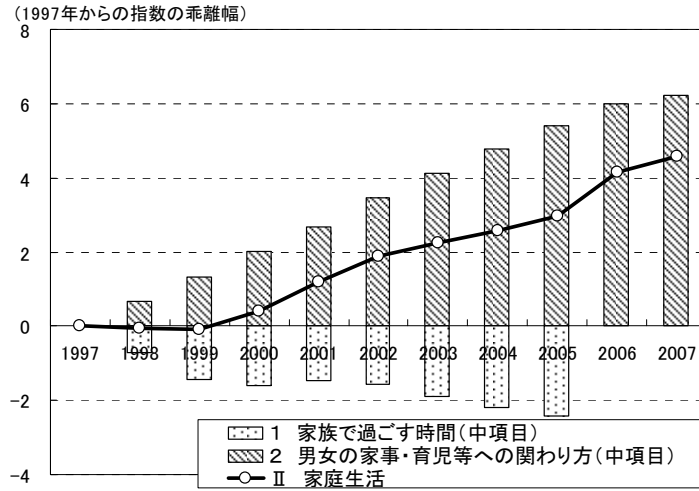
3 過重な負担のない働き方の推移の内訳

(1997年からの指数の乖離幅)



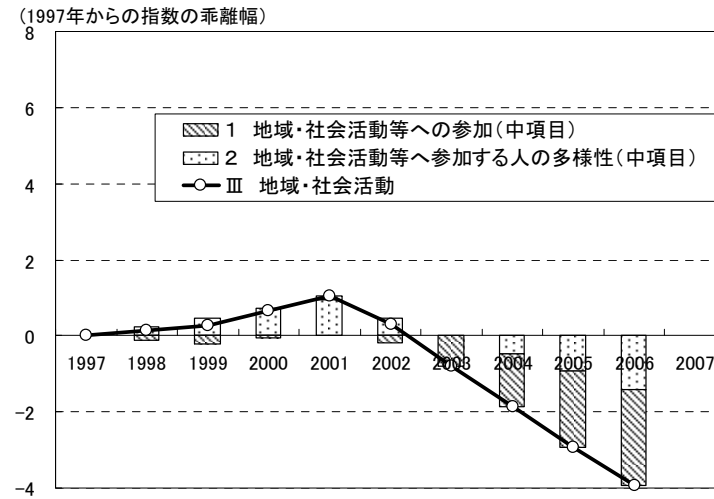
「Ⅱ 家庭生活」分野の動向

Ⅱ 家庭生活の推移の内訳



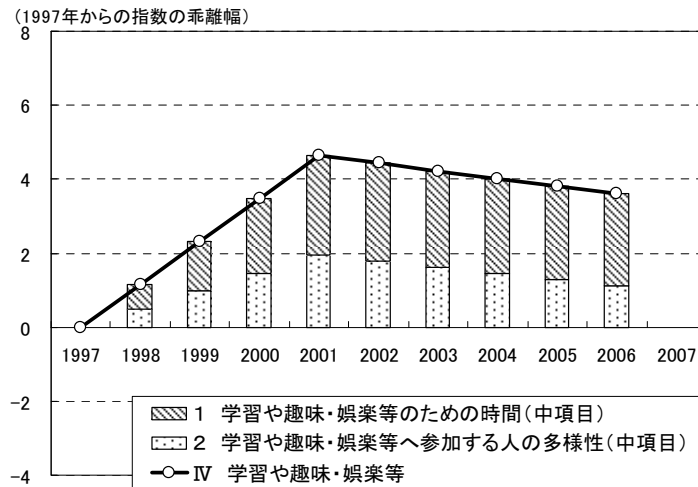
「Ⅲ 地域・社会活動」分野の動向

Ⅲ 地域・社会活動の推移の内訳



「Ⅳ 学習や趣味・娯楽等」分野の動向

Ⅳ 学習や趣味・娯楽等の推移の内訳



「Ⅴ 健康・休養」分野の動向

Ⅴ 健康・休養の推移の内訳

